

スポーツ映像資料の有効活用 Effective use of sports image material

1K06B093

指導教員 主査 武藤泰明先生

越尾篤

副査 リー・トンブソン先生

本論文の主張は、スポーツ映像を有効活用すべき資産であるとし、スポーツ映像の開放、より自由な利用を目指すべきとするものである。論文中では「スポーツ映像」についての定義から考えた。普遍的な定義として述べているわけではないが、スポーツシーンをおさめた映像であり、不特定多数に向けられたものであること。また、試合中の映像ばかりでなく練習中などの映像も含め、第三者により編集加工されたものもふくめる、とした。

さらにスポーツ映像には「リアルタイム」「数日以内」「その後」の三段階があるとした。この三段階は時間の経過とともに段階が移り、内容は変化しなくともそれぞれの段階において求められるものや果たす役割が変化していくという考えである。

第二章では先行研究と合わせてスポーツ映像が社会に与える影響、トレーニング資料としての価値、そして現在のスポーツ映像をとりまく環境にも言及する。

第三章ではスポーツ映像を生み出す中心であるメディアとスポーツとの関係やスポーツ映像の持つ価値などを考えながら、よりよいスポーツ映像環境の実現について考察していく。近代スポーツと映像撮影の歴史は互いに初期の頃からつながりがあり、それぞれの変遷において関わり合ってきたと言える。この理由として、スポーツが文章などの表現よりも映像による直観的な伝達に向いていた事、さらにスポーツが決まった時間決まった場所で行われる特徴を持っていた事が挙げられる。スポーツ映像とメディ

アとの長い関係の中でスポーツ映像にも、時代とともに様々な撮影技術や再生方法が登場した。

そして、スポーツ映像の有効活用を主張する大きな理由となるのが、スポーツ映像の持つ大きな可能性である。具体的には、スポーツ映像が高いパフォーマンススキルの宝庫であること、物語性を含む映像であること、優良な研究資料となることなどが挙げられる。高いパフォーマンススキルがおさめられていることでスポーツ映像はアスリートや子どもたちにとってトレーニング資料や教科書としての役割が期待され、さらには研究者にとって有料な研究資料としての役割が期待されるなど「その後」の段階においてもスポーツ映像は高い需要があるといえる。

第四章ではよりよいスポーツ映像環境のための提案を行う。結論としては、今後 JISS の SMART-system のように映像の集積、情報価値の付与、検索の簡易化、より自由な利用などを可能にするスポーツ映像の閲覧環境の整備が社会全体にとって利益となると考えられる。SMART-system はストーリーミング再生にすることで個人に膨大なデータが蓄積することを防ぎ、映像の管理の面でも好ましい。また、スポーツ映像の特徴として長い映像の中で求めている部分は一瞬だけということもある。そこで映像をシーン毎に分けて検索可能にすることで面倒が回避できる。

最後に、本論文を含め、スポーツ映像研究の今後の課題は、メディアとスポーツの「これから」の関係を考えることであろう。時代とともに種々の権利や金銭の動きも変わり、テレビを

はじめとするメディアの状況も近年大きく変わろうとしている。その中でスポーツ映像は次々と世に出て行くまたとないチャンスなのかもしれない。スポーツ界とメディア双方にとって過渡期ともいえる今、互いの関係を見直す様々な提案が求められている。